

育成助教の組合員の皆様、

広島大学教職員組合
執行委員長 河西英通

2021 年 6 月 25 日

突然のメールで失礼します。この度、様々な情報に基づいて、本学における育成助教の方々が直面している諸問題を検討し、解決への方策を見出すために、育成助教の組合員の皆様が集まって協議することを提案したいと思います。

今年度は 2019 年に最初の育成助教が採用されて 3 年目に当たり、初年度に採用された方々がその任期の最終年度を迎えます。それを契機に、本組合の専門部会で検討を加えた結果、現在、育成助教は本学の教員全体の約 1 割に及ぶ重要な構成員となっているにもかかわらず、その採用や処遇の在り方には深刻な問題が存在していることが明らかになりました。このままその状態が放置されれば、本学の育成助教の方々の将来に重大な困難をもたらすことが危惧されます。

育成助教の方々をめぐる処遇等については、さしあたり、以下の問題が指摘できます。

1. 育成助教の採用の隠された、しかし真の目的が、本学の教員の平均年齢を低下させることによって、文部科学省による本学の評価を向上させるための方策であったため、「その能力を育成することを通じて学術界の発展に寄与する」という、育成助教にとって本来そうであるべき、しかし表面上の「目的」がなおざりにされ、部局によっては「時限付き教育労働者」のように処遇されていること（参考：評価項目「若手教員の比率」が 16 校中 13 位となったことを受け、その実績を向上させるために募集することが 2019 年度募集要項改訂版に明記されていたが、その後は削除されている）
2. 育成助教の申請部局には「育成計画の明確化」が指示されているにもかかわらず、大学本部は育成計画を申請部局の提出書類に含めず、したがって採用後の育成助教に提示もされていない。そのため、育成助教は期間中及び期間後の将来計画を見通すことができないこと
3. 緊急の要求として大学に要求すべき内容には、以下のものが考えられること

（１）早急に当事者である育成助教とともに「育成計画」を策定し、「育成計画」が実施できるように育成助教の任期を 2 年延長すること、（２）採用年度に関わらず、育成助教が本学での研究を継続できるための受け皿を用意すること（一定数の TT 助教のポスト、応募可能な教育研究職など）

以上はあくまで組合専門部会による例示ですが、組合に参集されている育成助教の方々が一堂に会して、現状の問題点などの意見を出し合い、それを改善するための意見を集約して、大学当局に、育成助教の処遇の改善のための要求をまとめるための取り組みを始めることを提案します。

早速ですが、以下の要領で組合員の育成助教の方々と本組合執行部や専門部会のメンバーとの意見交換の会議の開催を提案させていただきます。また、この会議には、組合に入っておられない育成助教の方にもお誘いをしております。お知り合いの組合未加入の育成助教の方にもお声掛けください。この会議は組合本部における対面の会議と Zoom によるオンライン会議のハイブリッドで行おうと考えています。

皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

ハイブリッド会議：7月8日（木）12：10－12：50

場所：組合本部、および Zoom 会議